

予算特別委員会会議録

令和2年12月7日

宮古市議会

令和2年12月宮古市議会 予算特別委員会会議録目次

(12月7日)

議事日程	1
出席委員	1
欠席委員	1
説明のための出席者	1
議会事務局出席者	1
開 会	2
付託事件審査(1)	2
閉 会	10

宮古市議会予算特別委員会会議録

日 時
場 所

令和2年12月7日（月曜日） 午前10時07分
議事堂 議場

○

事 件

[付託事件審査]

(1) 議案第23号 令和2年度宮古市一般会計補正予算（第14号）

出席委員（21名）

工藤小百合	委員長	竹花邦彦	副委員長
白石雅一	委員	木村誠	委員
西村昭二	委員	畠山茂	委員
小島直也	委員	鳥居晋	委員
熊坂伸子	委員	佐々木清明	委員
橋本久夫	委員	伊藤清	委員
佐々木重勝	委員	高橋秀正	委員
坂本悦夫	委員	長門孝則	委員
落合久三	委員	松本尚美	委員
加藤俊郎	委員	藤原光昭	委員
田中尚	委員		

欠席委員（0名）

なし

説明のための出席者

付託事件審査（1）

総務部長 中嶋 巧 君	産業振興部長 伊藤重行君
財政課長 箱石 剛 君	産業支援所長 岩間 健君
財政係長 山本恭彦君	産業支援幹 盛合正寛君

議会事務局出席者

事務局長 下島野 悟	次 長 松橋 かおる
主 任 佐々木 健太	

開 会

午前10時07分 開会

○委員長（工藤小百合君） ただいままでの出席は21名であります。定足数に達しておりますので、これから予算特別委員会を開会します。審査に入る前に申し上げます。本日の案件は付託事件審査1件となります。審査はお配りしております審査日程のとおり、議案第23号令和2年度宮古市一般会計補正予算（第14号）の審査となりますので、よろしく申し上げます。発言及び答弁は、一問一答方式で申し上げます。発言の時間につきましては、質疑、答弁を含め1人20分以内としますので、質疑、答弁とも簡潔明瞭に申し上げます。なお必要がある場合には二巡目まで行います。当局においては場合によっては反問権を認めますのでよろしく申し上げます。それでは、審査を行います。

○

付託事件審査（1）議案第23号 令和2年度宮古市一般会計補正予算（第14号）

○委員長（工藤小百合君） 審査は歳入歳出一括で行います。発言される方は、議案書のページ款項目等を特定して発言してください。それでは、発言される方は挙手願います。竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） おはようございます。それでは私からは主要事業一覧表、資料としてついておりますので、これに基づいて幾つか質問をさせていただきたいというふうに思います。まずは今日補正提案があった、飲食事業者への支援、評価をしたいというふうに思います。私も一般質問で飲食事業者への支援が必要ではないかという趣旨でそういった通告をしておりましたので、ある意味今日の補正予算提案がですね、そういった市としての方向性、回答になったものというふうに受け止めております。そこでまず一つは、1店舗当たり30万、こういう金額を給付すると。この金額の考え方、これはどういう考え方で30万円にしたのかですね、この点を最初にお伺いさせていただきます。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい、お答えいたします。この30万円の根拠でございますけれども、まず急激に落ち込んだというのがですね、11月10日頃からですか、宮古でヌッフドゥパプからの由来のクラスターという飲食店ということで、それ以来急激に飲食店が営業をとめるだとか、しばらく休むだとか、曜日を限ってやるとかって非常に厳しい状況が続いてまいりました。まず固定費等を考えましてですね、1ヶ月約10万円、そのまず長期化するであろうという今の見込みからいって11月、12月、1月分を想定いたしましてまず30万円、緊急的に支援が必要だろうということから、30万円で提案をしているところでございます。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） なるほど。月の固定費が10万円、今日提案されているように11月から1月までということで、その分の3か月分を考えて計上したということですね。確かに市内の飲食事業者、特にも夜の俗にいう飲み屋さん等、店舗をしばらく閉めているところ、シャッターを閉めて今週いっぱい閉めるとかという形が多いようですから、そういう意味では大変市内で感染者がふえたことに伴って大変大きな影響を受けている。特にもこれから12月、忘年会シーズン等々控えていきますので、かなり影響は大きいだろうなというふうに思っております。そこで30万円の根拠についてはわかりました。そこで300件としております。多分これは市内の飲食事業者等々の数をもっときちんと把握をした上で提案になっているというふうに思いますけれども、一応300件。一方では本当にこれで大丈夫なのかな、数的にですね、そういった思いもありますので、その300件についての考え方・根拠をお示しいただきたいと思っております。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。300件の根拠についてお答えをいたします。まずは平成28年の経済センサスの数字での飲食業者数、そして我々春先に持続化給付金の実績がですね、全ての決定者が1,466社ございましたが、そのうち飲食業者が250社ございましたので、今回我々はですね、1店舗当たり30万円で複数店舗営業の場合は各店ごとに30万円という考えでございますので、300社想定していれば大丈夫だろうということから、300件という数字を使わせていただきました。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 今部長のほうからは複数店舗を持っている方については、当然それもカウントをするという考え方も含めて示されました。2つあれば2店舗分60万円、3店舗あれば3店舗分、それで大体250社程度だったら300件見れば一応十分ではないかと、こういうことであります。了解をしたいというふうに思います。そこで最後になりますが、11月から1月までと、この3か月、確かに3月、4月のこれから歓送迎会シーズン等々どうなるかというのが今後の先行きとすれば心配がされる。しかし、4月が入ってくるとこれ新年度でどうするかということも含めて検討されるだろうというふうに思いますので、これを1月までとりあえず3か月間としたと。つまり2月とか年度内という形に期間を延ばしてないと。この3か月、1月までとした考え方もあわせてお示しをいただきたいというふうに思います。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。この3ヶ月ということなんですけれども、今、非常に困ってるのは宮古市だけではございません。岩手県内全体がそうだということで今県のほうもですね、どういう支援がということで、現在得ている情報であれば、来年1月から向こう3か月間の家賃補助への動きがあるようでございますので、岩手県が決まり次第、宮古市もそれは予算化が必要になるだろうということも情報として得ていましたので、まずは今回この部分、手をつけられる部分の3ヶ月ということで計上させていただいておりました。

○委員長（工藤小百合君） 竹花委員。

○委員（竹花邦彦君） 今部長のほうから、県の動向についてもお話がありました。我々も新聞報道等で、県が飲食事業者に対して家賃支援をする、課題はその売上げの減少幅が50%なのか、30%なのかそういうね、要件緩和がどうなのかというところが注目をされる場所だなというふうに思っております。当然そういったことにあわせて市としても県で一定の支援が決まれば、それに対応する措置を検討すると、こういう準備が出来ているというお話もありました。当然私は、一方では県の家賃支援という形が出てくるとすれば、市とすればやっぱり別な形のほうが望ましい。ある意味は県と市の役割分担等々も含めて、私はひょっとしたら市も家賃支援という格好で動き出すのかなと思っておりましたが、今日は事業継続給付金ですので、大変そういった意味では、県と市がそれぞれ県は家賃を支援していく、市はこういった独自に事業継続給付金を支給して、大変そういった意味ではある意味市の実態に合わせた給付になっている支援ではないかなというふうに評価をしたいというふうに思います。今後、どういう形で一旦今少し落ちついているように見えますけれども、またいつどうなるかわからないというコロナの状況でございますので、引き続き事業者の実態等の把握に努められながら、適切に支援を行っていくということも、ぜひそういった点を市も留意しながら進めていただきたいというふうに思います。そのことを申し上げて私の質問は終わります。

○委員長（工藤小百合君） 次は、松本委員です。松本委員、どうぞ。

○委員（松本尚美君） あらかた竹花委員とのやりとりで理解をしたところですが、ちょっと確認なんですけれ

ども、国においては宮古市だけではということではないんですけども、全国的にまたGO TO関係も一部こう制限するとかですね、そういった流れになってきています。今回の提案は感染防止対策というよりも、どっちかという、当初春先ですか、実施したいいわゆる事業を継続する、そこを支えるという考え方だと思うんですね。一方で国のほうでは、一般質問にもちょっと取り上げましたけども、私も取り上げてはいるんですけども、国は創生臨時交付金、これにはこの時短を含めて営業時間ですね、いわゆる感染防止対策という部分が盛り込まれてきてるわけですね。当初の流れからすると、自治体はその休業要請なり感染防止対策として、休業要請なり時短するそういった保障という部分、これがなかなか国とかみ合わなかった部分があったんですね、独自でやるかっていうことで額もばらばら、まちまち、その財政力によってですね。ところが、国もそういった流れの中で時短も含めてですね、休業要請等々するんであれば認めますよという流れになってきているんです。んで、今回私はこういった事業継続の部分もちろんこれを否定しておりませんし、評価もするんですけども、一方で感染防止対策っていう部分が、緊急を要する部分だと私は理解しているんですね。そういったことが今回盛り込まれないし提案もされないっていうのは、これ何か検討の過程で感染防止対策よりも、まず継続させるほうがこれ春先と同じ流れですよ、考え方は基本的に。そこをちょっと確認したいんです。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。まさしくその感染症防止対策のほうも重要であるというふうに我々も認識しております。現在今まで我々、事業収益確保事業というところで感染症防止対策を進めてまいりましたけれども、岩手県も10万円を限度として今、宮古商工会議所の窓口として、年内だったんですけど、これが1ヶ月延長することが決まりましたので、まずはその部分の経費でもってやっていただきたいというのがございます。また、事業所のアンケート結果によりますと、感染症対策をまた今後もやりたいという事業者もございますので、我々としてもリフォーム補助金といいますか、そういうのは既に検討してまして、いつ県の10万円の事業が終わった後に必要かどうかというのを見極めながらやっていきたいというふうに考えております。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい。感染拡大を防止するという観点で、県が今取り組んでいる部分の状況を見るということもわかります。基本的には分かるんですね。ただこの緊急ということになっちゃうと、やはり今求められているのは飲食店側とすれば、しっかり受入れ関係をどうつくっていくかってことですね。それと同時にやはり感染拡大をさせないためにはどうしてもそういう飲食店が密とかですね、そういった環境の問題があってどうしてもお客さんが行かないというのを避けるといいますか、そういったのが流れの中にありますね。ですからこの額も含めてこれトータル的に一方で事業を継続させていただくということとの合わせ技でね、やはり同時進行でやっていかないとこれは改善していかないんです。そうするとこれが今回のクラスターっていうのは、私は宮古クラスターと言っているんですけども、もうそういう状況の中で一気に沈んでしまった、じゃこれをどう回復するかっていうのは11月、12月、1月だけの問題ではないっていうのは、当然念頭にあるかと思えます。これがあと例えば年明けとか年内とかにまた発生しちゃうと、これはずっと継続してくる。ですから、一方で先ほど言ったように持続していただくというのはもちろんなんですけども、やはり感染防止対策、環境整備を同時にやっていかないと、今県の10万円とか言ってますけども、もう10万円なんていうのは、もう例えば空気清浄機とかを購入して設置するっていうのが1番なんです、早いんですけども、足りないですねどこにも。そうすると持続化給付金がそっちへ回っていく可能性っていうのはね、私は大いにありうると思うんです。継続するというのももちろんなんですけども、そういったところにお金が流れてしまう、そうするとどうして

もまた環境整備が後手になってしまう。万が一これが終息までいかないにしても、落ちついたところでいって万が一発生しちゃうと、またこれが継続してしまう、リスクがそのまま残ってしまうということ、ここを念頭に私はもっとこう検討された経緯があるのかなというふうに思って今確認をしていました。残念ながら、ちょっとそこは先送りになっている感じなので、一般質問でのやりとりの中でしっかりそこは確認・提言をしていきたいというふうに思いました。んで、その検討の内容の経過をちょっと確認をしたかったというのが1点です。それからもう一つはですね、固定費の考え方は、家賃もそうなんですけども、ばらつきがある。それから固定費の考え方として、複数店舗を今度はいよいよっていう話なんですけども、1店舗でもやはり規模が違う。そういうこの何ていうんですかね、事業の規模によってのこの差っていうのが私は現実的にあると思うんですかね。それと公平性という部分ですね。同じ維持っていっても、10万円で月をまかなえる固定費の事業者もあるかもしれませんが、やっぱり20万30万ってかかるその固定費の考え方ですね。基本的には私の認識では固定費っていうのはもっと水道光熱費・家賃とかですね、あとはやっぱり人件費なんか当然カウントされている。残念ながら宮古市の市内の事業者、法人になってる事業所も割合がわかりませんが、少ないのかもしれませんが。そうすると国が今実施している、休ませているいわゆる休業補償ですか、そういった制度を使えない。そういう状況だと思うんです。だから固定費の考え方はちょっと低過ぎるんじゃないか、もしくはこの幅がなさすぎるんだよねというイメージなんですけど、そのこの検討はどのような内容ですか。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。確かにですね綿密な計算をして出したのかと言われると、なかなか厳しいところもあるかなと。やっぱりそのスピード感を持ってですね、まずやりたいっていうのが大前提としてありました。ただし宮古市の場合、平均の家賃が8万7,000円ぐらいだと。飲食ですね。確かにその従業員を抱えているけど労災をかけないでということだと従業員数でやったほうがいいんじゃないかとかいろいろ検討してみましたけれども、その平均家賃から追って、あとはカラオケだとか、もしくは大型冷蔵庫を借りていけば、それもリースだろうしというような部分も含めましてですね、10万円というところで設定をしたということで、少し粗いかなというのも正直なところあるのは否めません。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい。固定費とはここで表現していますが、家賃という理解ですか。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） イコールではございませんので家賃等などという解釈でございます。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） 後段の部長の説明で、もう県が年明けに今検討中ですよと。だから減少割合30%云々のここ50%、10%、そこはまだ見えないという話になるんですが、それが実施されるこの間をつなぐという説明もあったので、あえてちょっと聞いてるんですけども、家賃であれば家賃でね、特化してわかりやすいし、感染防止対策っていうのであれば感染防止対策っていうのでわかりやすいし、非常にちょっと分かりづらいですよ。うん。そこはあえて避けたということですか。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） あえて避けたかどうかということと言われるとちょっと避けたつもりもございませんけれども、やはり我々もともとのコロナ対策をする基本方針としまして、やっぱり事業の継続と雇用の維持というこの2本柱でやってまいりましたので、事業継続していただきたいということから今回の提案という

ことになります。

○委員長（工藤小百合君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい、わかりました。まずじゃ次最後なんですけど、この30%ですね。ちょっとこれも悩ましいことかな。春先の20万円の部分、持続給付の部分ですね。これについても1円でもってという話もありますよね。前年対比でもってですね、今回30%の設定ということで要は一つにはですね、頑張っている飲食店がぎりぎり対象にならない。頑張らないところ、そういう表現よくないんですけども、頑張っているところと頑張っていないところ、やはり前回もね、給付に当たっても私は一円ということだから、問題なかったと思うんですけども、国は50%っていうのはね、決めていました。頑張って50%クリアしてるところは対象になる。なかなかこのどこで線を引くかっていうのは難しいと思われるんですね。じゃあ29%がグレーで31%がブラック、駄目だということになるのかですねだからそういったのは大変難しいなというふうに思うんですね。たまたまなのか、その数字のつくり方というのは失礼だけでもね、そういったことが起きてくる可能性は私はいらうと思っていました。だから春先の20万円の給付に関しても、そういったことがあってはいけないんでしょうけれども、あった可能性も私は否定出来ないんです。だからそういったことを、今あえてこの国の持続化給付金に関していろいろ問題、逮捕者も出ていますね。架空の部分であったり、数字がつくられたりですね。そういったことがあってはいけないというふうに思うんですけど、この30%を決定するに至った、もう少し検討の経過をちょっと伺いたいです。

○委員長（工藤小百合君） 岩間産業支援センター所長。

○産業支援センター所長（岩間健君） はい、お答えいたします。5月から持続化事業継続給付金に20万円ということで議員ご指摘のとおり一律に業種を問わずというやり方をしまして、今回は緊急的に支援しなければならないということで業種を狭めました。この間国のほうでは持続化給付金、法人200万円、個人100万円、これは売上げ減少率が対前年比50%、そのあと出た国の家賃支援給付金が30%という数字がありましたが、30%が連続3ヶ月という数値がございまして、市内の飲食店においても該当にならずに国の持続化給付金を受けられない事業者も最近ございます。12月まで受給できる制度ではございますけども、それ30%っていう部分はその国のほうの部分で、50と30の間でどうしても苦しんでいる事業者さんがいるというのがまず見えてきたのが一つでございます。そのほか、春先に当時なかった経済対策の一つとして、プレミアム商品券っていうのがございます。6月、そしてこの12月からスタートしましたが、同じ飲食業者でも食堂ですとか、カフェ、レストラン、昼間営業できる、テイクアウトができる業種に関しては、同じ飲食業でもそういう店舗に関しては、まず売上げも幾らか頑張っていたいただいているのかなという部分で、どうしても夜間の飲食業の皆さんと中間からの飲食の皆さんとちょっと差が出てくるのではないかなという部分がありまして、まず一律1円でも減収したらという考え方はしてましてということで考えました。プレミアム商品券等の効果も実は昼の飲食業には結構広く薄く行き渡っているというふうに分析しておりまして、それらもございましたので30%というところで一旦線を引かせていただいている考え方でございます。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） ひと通り出たなというふうな思いでありますけれども、今最後に課長がお答えになった部分なんですけども、一方においては国の事業持続化給付金というのがありまして、そういうもとで市独自の事業給付金というふうに私は受け止めておりますが、とりわけ今回飲食業に絞ったということを提案されていると私は理解してるんですけど、これは飲食業に絞った理由というのは特に何かございましたっけか。例えば飲食

業界に提供する素材メーカーだとか、まちの普通の今は大分減ったと思っているんですが、事業所の中には入ってくるんだと思われ、普通の飲食品、雑貨を売る小売業者もありますよね。そういった部分でも国の支援制度と、それから県の制度、さらには市の制度、それぞれ事業者の皆さん方が何とかその事業を継続させるために出たものであれば、さっきお話が出たように、30%の場合に29%だったら該当しないのということがね、やっぱり生じないようにするべきではないかということがいろいろ私も松本議員の質問も含めてそういう理解をしているんですが、そこで予算説明でちょっと確認した部分であります。説明の中では市内の事業所1,466社、その中でいわゆる飲食業が250社、説明ではほとんどこの250社が対象になるっていうそういう想定のもとに予算の提案でございますというふうに理解いたしました。ところが30%、これを設定することによって、ここからもしですよ、クリア出来なかったという事業者も出てくる余地が残るわけですよ。そういう意味で、ちょっとここはなぜ30%なのかという松本議員の質問だと思って私は聞いているんですけども、例えば4分の1、25%のほうがより確実にフォローできるんじゃないか。いやいや現状ですと、30%でほとんどフォロー出来ますと、そういうやっぱり見通しのもとにこれは提案されたものと思うんですが、そこは明確に今回の事業の政策の背景についてですね、もし可能でしたらご説明お願いいたします。

○委員長（工藤小百合君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。我々も本当に全ての飲食業の人が苦しいだろうという認識でございます。ちなみに先週の金曜日、先週の金曜日のみならず、私はいろいろ夜に調査をしますけれども、12月4日正式に数字をとってみました。末広町、中央通り、そして大通り界限、保久田、何店舗開いていたと思いますか。71でした。そして一つのビルに6店舗ぐらい普通は入っているんですが、開いているところが2店舗ぐらいです。1店舗ずつ周りまわりました。そしてあとは張り紙を張っているところもありますね。しばらくの間とか、逆に張り紙も張ってないで休んでるところもあります。恐らくいたずらをされないようにだと思います。非常に厳しい状況をもう目の当たりにしております。今回11月、12月、1月、特にも忘年会・新年会でございます。去年と比べてどの月でもいいんです。30%減ったというところはほとんどの事業者が該当するものというふうに考えております。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員。

○委員（田中尚君） はい。部長のほうからはほとんどの事業者が対応するというふうなものとして提案していますという答弁を確認したというふうに私は理解いたします。その上でもう一つやっぱり課題はですね、この間実施してきております国の事業持続化給付金、それからこの問題につきましては、特にいろんな意味で以前にも指摘いたしました、こういう新聞報道がございました。農業生産者の場合なんですけれども、お米の生産農家の方々が、農閑期も事業収入ゼロだということをあたかも詐欺を働くかのようなですね、報道が全国になされました。そこから今生産者の方々はどのような受け止め方をしているかといいますとね、いやあ、私はどうせ該当しないんだと。つまり去年の年収も毎月コンスタントにあったわけじゃない。お米を収穫出来て秋口に米がとれた段階でまとまって入ってくると。それをならせば一か月幾らという売上げが出てくるわけですからね、そういうことを考えると、私は該当しないと思ってる方も結構多いみたいですよ。多いと言っても構いません。ところが、ここはねやっぱり私はマスコミもちょっとどういう取材をしたのかなという不信感を持っているんですけども、このあたかも詐欺を働くかのような新聞報道、これは訂正したと私は理解しているんですが、まずその前に部長さんはこの新聞報道を見てどのように思いましたか。つまり農閑期も収入ゼロだ、これを問題にしたんですよ。そこで聞いてるんですけどもね、これは国のほうでは何と言っているか。

99%該当しますよと。例えば、前年と比べて収入がゼロ、あるいは5割以下、ひと月でもあれば該当するというのは国の制度です。これに対してそういうキャンペーンが行われてですね、該当するであろう方々が申請を言わば非常に慎重になっているという状況が私は全国的に生まれていると思っております。特にそういった部分からいきますと、私はいつも評価するんですけども、重茂の漁協はもう日本一だ。協同組合としての本来の経営も運営もしっかりやっているというふうについていつも紹介したつもりがあるんですが、それに比べて他の漁協はどうかという問題が一方ではあります。そういった意味からすると、この事業持続化給付金、国の制度もしっかり活用できるようにする。なおかつそこにフォロー出来ない市の事業もしっかりオーバーラップする形で・・・。

○委員長（工藤小百合君） 田中委員に申し上げます。今日の予算特別委員会は当局で提案された30万円ということに対しての審議でございます。今は幅広く話が広がっていますので。

○委員（田中尚君） 駄目ですか。どうしてですか。

○委員長（工藤小百合君） はい、駄目です。今の審議は30万円ということですから。その部分でお願いします。

○委員（田中尚君） ですから事業持続化給付金ということで私は問題にしていますよ。政策の背景を冒頭に聞きました。そこでもやめなさいということでしたよ。

○委員長（工藤小百合君） 商工振興費の中の説明がある通りの部分の中で質問をお願いいたします。皆さんのお手元に配付になっていると思います。

○委員（田中尚君） 商工振興費にもなるわけでありまして、この問題につきましては商工会議所さん、それから私どもがいろんな意味で友好協力団体になっております民主商工会さんはいろいろ対応させていただいております。実は商工業の方々も私の理解は農業者・漁業者入ってくるでしょ、商工関係の方に。商工会議所に入ってる方もいるはずなんです。そういう理解のもとに言っておりますので、いずれ何が言いたいかといいますと、本来対応するだけけれども、申請を受けられないと誤った認識をお持ちにならないように、しかるべき経済団体がしっかりやるようにという点ではね、この予算に関連をして産業振興ですから、しっかりと現状も指摘をしながらですね、改善を求めるという意味で取り上げておりますので、以上です。終わります。

○委員長（工藤小百合君） 以上で議案第23号、令和2年度宮古市一般会計補正予算（第14号）の審査を終了します。説明員は退席願います。ご苦労さまでございました。

これより議案第23号、令和2年度宮古市一般会計補正予算（第14号）に対する討論を行います。討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 討論なしと認めます。これより議案第23号を採決します。この採決は、簡易表決で行います。お諮りします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 異議なしと認めます。よって議案第23号は原案可決すべきものと決定しました。

以上で本委員会に付託されました案件は全て審査を終了しました。皆さんにお諮りします。ただいま本委員会に付託されました全ての議案について、全会一致で可決すべきものと決定されました。よって委員長からの提案ですが、12月7日の本会議における委員長報告に対する採決については、討論を省略し、全て一括で採決するよう議長に申入れたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（工藤小百合君） 異議なしと認めます。よって、本委員会の委員長報告に対する採決については、討論を省略し一括で採決するよう私から議長に申入れたいと思います。

○

閉 会

○委員長（工藤小百合君） これをもちまして、予算特別委員会を散会します。大変ご苦勞様でした。

午前10時43分 閉会

○

予算特別委員会委員長 工藤 小百合